

5. 関連する農業整備事業について

平成 16 年度は農業用排水路及び農用地の機能低下状況を調査するとともに地域環境の現状について現地調査を行い、環境に配慮した土地改良事業の整備構想の検討を行いました。

5-1 「幌呂地区」の調査結果

5-1-1 地域農業の現状

酪農は鶴居村において、なくてはならない基幹産業であり、全道的にもトップクラスを誇る良質な牛乳を生産しています。広範囲に広がる泥炭農地では、泥炭地特有の地盤沈下によって、排水路断面が狭小となり農地表面に凹凸が生じるなどの農用地や農業用排水路の能力低下を引き起こし、農地の過湿・湛水による牧草生産量の低下や農作業機械の作業効率の悪化が顕著になっています。

このため、地域の農業者から農地の整備を強く要望されており、それらを踏まえて泥炭地を対象に国営土地改良事業（国営総合農地防災事業）の実施に向け調査を進めてきました。

泥炭土の生成

泥炭土は植物遺体が腐らずに堆積したため、多量の水分及び植物繊維で構成されることから分解や脱水による沈下を引き起こし易い。



農業用排水路の断面狭小

地盤沈下により農業用排水路の断面が狭小となり、排水が迅速に行われず、降雨の際には溢れて農地が浸水している。



農地の地盤沈下

地盤沈下により農地に凹凸が発生し、湛水が生じている。



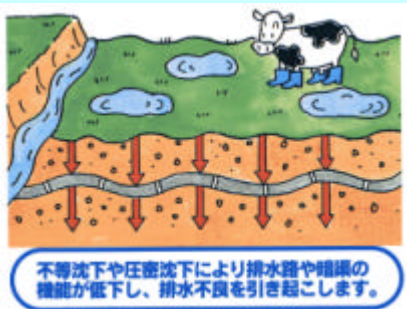
農地の湛水被害

排水が不良のため、湛水によりトラクター等の作業機械が農地に入れなく、牧草の搬出が出来ない。



農地の排水不良

農地に埋設されている排水を良くするための暗渠排水も地盤沈下により、その機能が発揮されなくなっている。



農業用道路の湛水被害

排水が不良のため、農業用道路が湛水し通行に支障を生じている。



5-1-2 自然環境調査の結果

農業用排水路の整備における環境配慮計画の立案のため、地区内の農業用排水路周辺を対象に魚類、植物の現況調査を実施し地域環境を把握しました(図 5-1、表 5-1)。

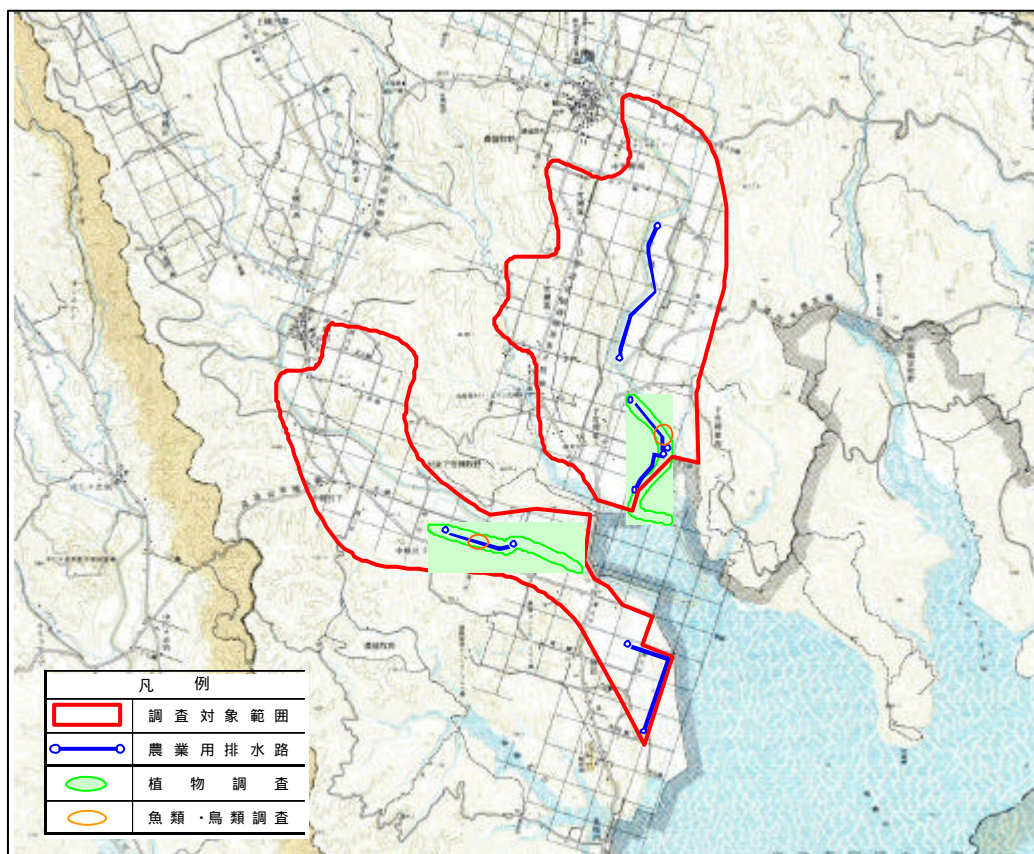


図 5-1 環境現況調査位置図

表 5-1 調査結果の概要

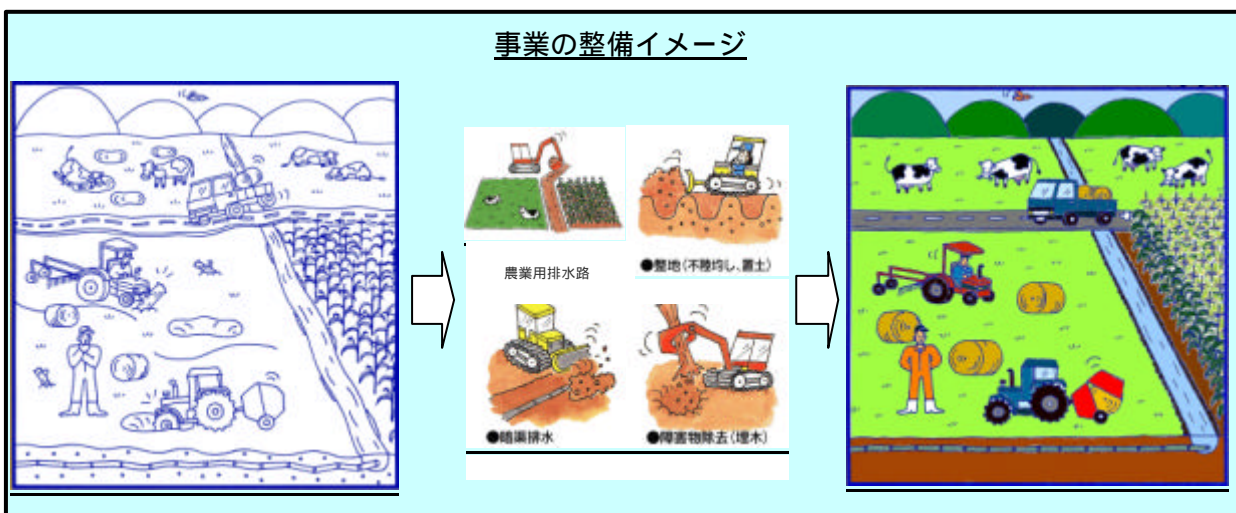
区 分	確認種数	着目すべき種
魚 類	4科9種	スナヤツメ、イトヨ、トミヨ、イバラトミヨ、エゾトミヨ、サクラマス、ハナカジカ
植 物	64科257種	カラフトダイオウ、エゾナミキソウ、タライカヤナギ、ノダイオウ、ホザキシモツケ、ヤマタニタデ、ウスイロスゲ、オオハリスゲ、バイカモ、チドリケマン、カラフトイバラ、エゾオオサクラソウ、エゾミクリ、アカンカサスゲ、ヤマムギ、ヒメウキガヤ
鳥 類	11科18種	タンチョウ
昆虫類	116科492種	ゴマシジミ、ミズムシ、アナバネゴミムシ、コシアキトゲハナバエ、エゾクロバエ、コエゾトンボ、セスジアカガネオサムシ

昆虫類は地区周辺における調査結果を引用

5-1-3 農地防災事業の概要

地域では、泥炭土の地盤沈下により農業用排水路や農用地の機能が低下している区域（鶴居第2地区）を対象に国営総合農地防災事業による整備を予定しています。

当該事業は、既存の農業用施設（農業用排水路・農業用道路）や既存の農用地の機能回復を図ることを目的とした事業です。

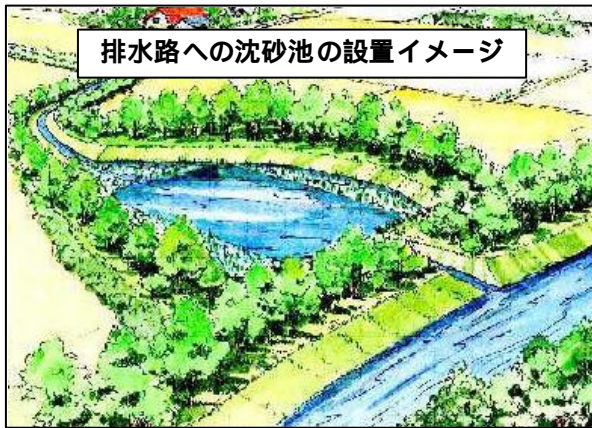


5-1-4 地域環境への配慮に関する取組み

工事施工時に農地及び排水路より土砂が発生することによる下流部及び釧路湿原への流下を抑制するため、河川と排水路合流部に沈砂池を設けることとしています。これらの沈砂池は工事完了後も下流部へ土砂が流下するのを抑制するために存置し、地元で維持管理していくこととしています。

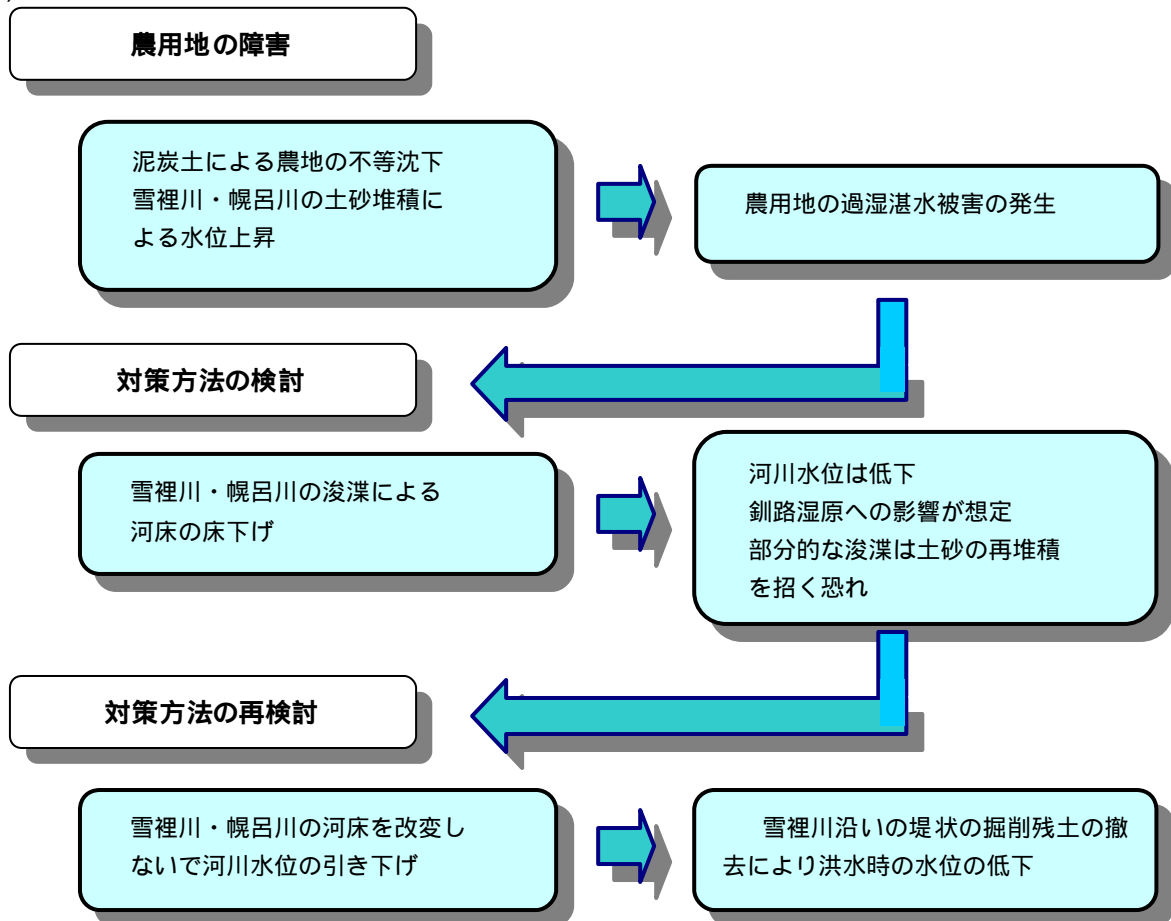
これらは、自然再生事業の土砂流入対策における排水路合流部沈砂池として利用出来るよう、関係機関と調整を図っており、実施計画を作成していくこととしています。

また、排水路は土水路を基本としますが、流速が速いなど護岸が必要な区間では、近自然型護岸工法を採用することにより、魚類の生息環境を保全することとしています。

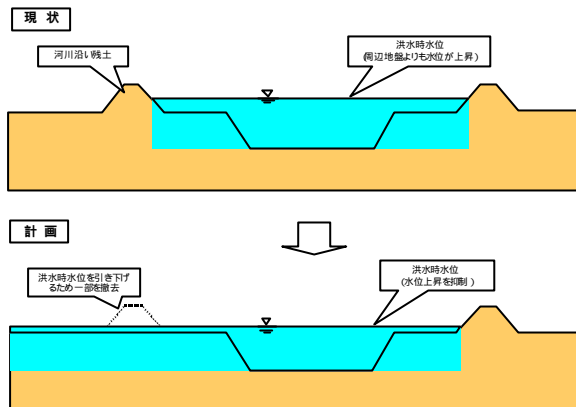


5-1-5 地域の排水対策の検討

(1) 排水対策検討フロー



(2)排水対策方法のイメージ



(3)想定される湿原への影響

掘削残土の撤去箇所からの河川流水の越流



越流水による湿原周縁部への涵養
(一部元来の流れの状態に復元)